

東海大学福岡短期大学教育研究年報 2010年度版 発刊にあたって

本学は、1966年（昭和41年）に福岡県宗像市に開学した東海大学工学部福岡教養部の後を受け、1990年（平成2年）4月に開学しました。宗像市をはじめとする地域から懇請のあった「情報化・国際化に対応できる人材の育成」を設立目的とし、現在まで4,000人もの卒業生を輩出してきました。しかし、社会の「四年制大学志向」と「専門学校志向」の間にあつて、教養教育を特徴とする本学は、学生数の減少という厳しい現状に対応することを余儀なくされています。今後、高等教育機関としての短期大学は、どのような教育を目指すべきかを、その存続の可否を含めて設立趣意に立ち返り、検討すべき時が迫りつつあるという認識を禁じえません。

本学は、2002年以来、「学びの自由化と個別教育の推進」を掲げ、学生が自発的に「なりたい自分」になるための「学び」をサポートするための教育システムの実現をめざしてきました。2005～2006年度にはこの「学びの自由化と個別教育の推進」を図るプログラムが、文部科学省の「現代GP」に採択され、「学生カルテ」や「リアルタイム授業評価」を活用した教育支援策を拡充してきました。また、2008～2010年度には、地域の自治体、企業などと連携して模擬的就業実践を通して学生を社会人に育てる「地域活性型人材育成プログラム」が、新たに「教育GP」に採択されました。さらに、2009～2011年度には、本学を含む北部九州の九短大が連携して申請した「地域の人材育成に貢献する短期大学の役割と機能の強化のための戦略的短大連携事業」が、「連携GP」に採択され、本学は、「初年次・教養教育の共同開発」事業を主担当として推進しています。

地域教育活動としては、公開講座「学校法人東海大学エクステンションセンター福岡講座」を開催、また、市内にある福岡教育大学、日本赤十字九州国際看護大学と、宗像市の呼びかけのもとに、「むなかた協働大学」を開講しました。他に、福岡県内の高校との連携授業も実施しました。

本学教育の質向上を目指し試行してきたさまざまな活動を土台に、今後、社会がめざすべき教育とどのように関わり貢献できるかを念頭に、人々から支持され、より魅力ある短大に成るべく創意工夫を続ける所存です。

ぜひ、本冊子に対する、ご意見、ご批判を賜れば幸いです。

2012年3月

東海大学福岡短期大学
学長 西野 仁